

岡山で藤原和通さん(14期)業績特別展

「『面白い音、求め続け』」「藤原和通さん(倉敷市出身)特別展」—という大見出しが新聞に踊りました。令和6年9月のことです。調べてみると藤原さんは14期生でした。面白い音の特別展? 珍しい展覧会だな、ということで会場の岡山県立美術館へ取材を兼ねて鑑賞に行ってきました。

藤原さんは青陵高校を卒業後、音楽家を目指して作曲家に師事しましたが突然目覚めて、奈良県できこりをしながら風や滝、都会の雑踏など意外性のある面白い音を収録、分析する道へ

がるボルネオ島で森のささやきを狙っているのでしょうか、収録中の藤原さんが写っていました。

ヘッドホンで音を



音を収録中の藤原和通さん＝ボルネオ島(撮影年不明)

半世紀の
仕事

聴くコーナーでは、口ひげをなでた時の音や虫が葉を食べる音など多彩な音を集めました。

耳で聴くことのできない万物の音を集めて五十余年になります。全国でも極め

世界の「音」を集めた「芸術家」

入りました。

その間、当時流行した携帯音楽プレーヤー「ウォークマン」を参考に、自ら開発した高性能マイク、耳や鼻の位置に高性能マイクを仕込んだ録音装置「ダミーヘッド・マイク」を携え世界中を巡りました。

音を集めるだけでなく、木や石を組み合わせた「音具」(おんぐ)を発明、新しい音を創作するなど芸術家の一面もありました。イタリアでは有名な芸術家と交流しました。

遺作を集めた特別展では、活動ぶりを写真で展観、開発した高性能マイクなど集音機材を展示していました。動画を見ると、インドネシアなど3国にまた

自ら開発した高性能マイク携え



藤原さんが開発した高性能マイク(上)と録音装置「ダミーヘッド・マイク」＝展示物より



てユニークな「音」の芸術家、は令和2年に76歳で亡くなられました。

青陵時代の同級生3人に、藤原さんはどんな人だったのか聞いてみましたが、3人とも「覚えない」、「小・中・高校が同じだったが、全く記憶にならない」と口をそろえます。意外性満載の人でした。

□…本稿の一部は令和6年9月15日付山陽新聞を参考にしました。



藤原均さん(17期)

王に会う機会に恵まれましてねえ」というハプニング付きでした。海外事情研究会という同好会にも加入了ました。

卒業後、仕事の傍ら「世界100カ国を目指そう」と本気になつたのが35歳ごろでした。「自営で時間の融通が利くのでね。妻の許可さえあればOKですよ」と笑いながら、「年6回、1回10日ぐらい、1カ国に2、3泊のペースです。(スイス

写真はピラミッドの原型があるスリランカの砂漠でラクダに乗り、コートジボワールでは住民と触れ合った一枚など海外旅行の象徴的なシーンをかなり保存しています。

□・藤原さんは青陵時代、テニス部でインターハイに出場しました／『青陵高校創立100周年記念誌』と同じ世界旅行のテーマで寄稿しています。

年6回、「カメラに頼らず目で見る」

スーダンでラクダに乗る=本人提供



原さん(17期)に連絡すると、「講演(依頼?)はもうやめてるんですよ。以前、青陵高校にも行きましたがね」、「いやいや取材です」ということで、お会いしてきました。

世界を巡る発端は慶應の学生時代で、父親にお金を出してもらつて40日かけて友人と世界一周旅行したのが始まりでした。「いきなり、ローマ法



コートジボワールで住民と触れ合う(中央の帽子が藤原さん)=同

ほぼ世界制覇 182カ国旅行

令和6年8月、「世界の182カ国・地域を訪問自営業藤原均さん」という記事が新聞に載りました。182カ国といえば国連加盟国193、パリ五輪参加国・地域207に迫り、ほぼ世界制覇ではないですか。驚いて藤

の東隣の小国)リヒテンシュタインなどはビールを1本飲んで3時間でさようならしましたね。一人旅が多いですが、妻や娘、旅行仲間と行くこともあります。

大谷もエンゼルス時代からで、「最近もドジャースタジアムで観戦しましたが、大谷人気はすごいですよ」と、ホットニュースを伝えてくれました。

世界旅行を始め80回ぐらい行つたそうです。ほとんど大リーグ見物で、野茂や松井の時代です。大谷もエンゼルス時代からで、「最近もドジャースタジアムで観戦しましたが、大谷人気はすごいですよ」と、ホットニュースを伝えてくれました。

これから50年たちました。藤原さんの海外渡航300回を記念した祝賀会が市内で開かれたのが冒頭の記事になつたのです。20年前に加入、2代目会長を8年務めた倉敷市国際交流協会の主催でした。この種の祝賀会はあまり聞いたことがありません。

残るのはチャドやニジェールなど中央アフリカとカリブ海の小国だけです。「200を目指しましたがコロナ禍であつさり断念しました。もう満足ですね。全国の世界覇者? 400人から500人もいます。私は珍しくありませんよ」と、淡々としていました。

「どの国が一番記憶にありますか?」という質問には、「よく聞かれるんですけどね、国と食べ物はそれぞれ好みがありノーコメントですよ」と笑いながら、具体的には答えてくれませんでした。

「二度の人生、旅を通して世界を考えてきました」と言う、うらやましくも優雅な人でした。

□・藤原さんは青陵時代、テニス部でインターハイに出場しました／『青陵高校創立100周年記念誌』と同じ世界旅行のテーマで寄稿しています。

合格実績

入試合格大学
2025年度

難関国立大学

東京大	2	東北大	4
京都大	3	神戸大	11
大阪大	12	一橋大	1
九州大	8	難関大 合計	44
北海道大	3		

岡山大学 学部別

法学部	4	工学部	17
法学部夜	1	農学部	3
経済学部	2	医学部医学科	2
経済学部夜	1	医学部保健学科	8
文学部	3	薬学部	2
教育学部	11	岡山大学 合計	54

国公立大学

東京農工大	1	香川大	23
大阪大	12	愛媛大	11
神戸大	11	高知大	1
鳥取大	3	九州工大	4
島根大	5	大阪公立大	1
岡山大	54	岡山県立大	9
広島大	5	その他の大学	75
山口大	3	国公立大 合計	224
徳島大	6		

主な私立大学

慶應大	1	東京理大	7
明治大	4	早稲田大	8
京都産業大	17	同志社大	41
立命館大	60	龍谷大	15
関西大	14	近畿大	52
関西学院大	30	岡山理大	39
川崎医療福祉大	22	就実大	36
清心女子大	51		

東大2、京大3、岡大医2人

(『青陵SCHOOL GUIDE 2026』より)

生活

（陽新聞より）

部活の運動部ではハンドボール部女子が県高校総体で3位、春季優勝大会で4位になりました。文化部では競技かるた部が全国高

陽新聞社が開発した新聞活用の学習支援サイト「キミスマタ」を活用しました。食料としての生は教材として生成AIと、山陽新聞社が開発した新聞活用総合的な授業（総探）に力を入れています。普通科高校では珍しいといわれ、1年生は総探の基礎固め、2年生はゼミ活動を行います。今年の1年生は教材として生成AIと、山

総合探究で情報の扱い方学ぶ

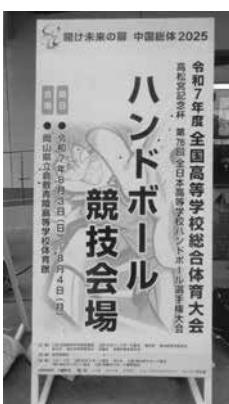
大学・社会人と戦う陸上の中国選手権800mで七村颯大さん（2年生）が2位に食い込みました。

ハンドボール女子は3位に入りました。競技かるた部は5人が全国の総文祭に岡山県チーム（8人）の主力として出場しました。



オーブニングで華々しく開幕した2025青陵祭体育館

ハンドのインターハイ会場に



体育館前に設置されたインターハンドボール競技会場の看板

進路

令和6年度（7年春）の進学状況（合格者）を見ると、国公立大学に224人と、前年より20人減りましたが、難関9大学は44人と、逆に10人増えました。中でも、東大2（前年1）、京大3（同1）と好成績でした。

前年76人と好成績だった岡山大は54人にダウンしましたが、前年ゼロだった難関の医学部医学科に2人が合格しました。

国公立医歯薬も12人から半減しましたが、医学部医学科は岡山大の2人を含め3人です。

進路指導課長の村山大輔先生は「難関9大学のアップは、（志望者が）強い意志を持ち志を貫いた努力の結果です。浪人生は前年より増えましたが、現在も前向きに受験勉強に励む生徒が多く、

来年の入試で結果を出してくれることを期待しています」と、温かく見守っています。

共通テストは5年目で、初の新課程学習指導要領での試験でしたが、実施形態、問題の難易度とともに特に問題はありませんでした。大半の国立大学で必須となった初めての科目「情報」は、あまり難しい問題は出題されませんでした。

ここ3年ほど、コロナ禍での関西志向が顕著に見られましたが、今回はやや関西方面の大学の合格者が減りました。

□…本稿は「合格実績」一覧と村山大輔先生の話を基にまとめたものです。

難関9大学は10人増え44人

全国高校総体（インターハイ）は青陵からの出場は、ありませんでした。が、中国5県での分散開催により青陵高校体育館がハンドボール女子の競技会場に選ばれ、8月3、4の2日間、熱戦が繰り広げられました。9月の2025青陵祭は「青瞬爛漫」のテーマを掲げ、文化の部は展示、ステージ発表、野外ライブ、模擬店合わせて約60のイベント、体育の部は11のプログラムを熱く展開、文字通り「青瞬爛漫」の3日間でした。

地域交通シンポに参加 岡山

路面電車の岡山
駅前乗り入れや路線バスの再編など
地域交通が大きく変わろうとしている岡山市内で令和7年7月13日、公共交通の利便性アップをテーマにシンポジウムが開かれました。

席上、JRや自動車会社、大学の研究者ら関係者に交じり、若者の意見として、探究学習の成果を発表したのが青陵高校3→



公共交通の利便性アップを提案した三谷晃徳さん(発表席左)と恒松哲人さん

青陵の三谷さん、恒松さん 探究学習を基に提案

年生の三谷晃徳さんと恒松哲人さんの2人です。日ごろから県内普通科高校では珍しく探究学習に力を入れていますが、主に同市交通政策課や同市のNPO法人「公共交通の交通ラクダ」で取材しました。2人は「路面電車に観光型の車両を設けて、線路幅が同じJR桃太郎（吉備）線と接続、吉備津神社や備中國分寺の観光客を増やす」「駅に駐車場、バス停に駐輪場を設け、公共交通との接続を改善する」「乗り継ぎ拠点にステーションやカフェ、自習室などを設け楽しくする」—など多角

的な提案を行いました。提案に対し、取材先や関係者から「利用者側や地域住民の意見を聞いて」「切り口は良いが、もっと掘り下げが必要がある」—などの感想をもたらしたそうです。2人はこの取り組みを「後輩に引き継いでいく」と力強く結びました。

会場に詰めかけた約180人の参加者から大きな拍手が送られました。

□：本稿の一部は令和7年7月10日付山陽新聞を参考にしました。

瀬戸内海の島々を舞台に「瀬戸芸」の名ですっかり有名になった瀬戸内国際芸術祭は2025（令和7）年に第6回を迎えました。

「（出品の）オファーを待つてたんですよ」と、夏会期に張り切って初出品した美術家・松井えり菜さん（53期）の取材で炎暑の8月、香川・男木島を訪ねました。

松井さんの作品は、変顔や自分に似ているといわれるウーパールーパー（メキシコサンショウウオ）など、幻想的な抽象画「自画像表現」という特異なジャンルに特化した現代アートです。

会場に充てられた古民家4室すべてに7点の力作が展示されました。メインは男木島と鷲羽山から見た瀬戸内海を、6畳間の壁面いっぱいに描いた油絵です。お得意のウーパールーパーや6歳の息子、1歳の娘の顔を描いた作品もあります。

松井さんは次々訪れる芸術仲間や観光客の対応に追われながら、「コンクールの作品や個展と違って、大きな芸術祭の中の作品づくりだったので新鮮でした。昨年秋から自分のアトリエで制作、作品搬入には苦労しました」と話してくれました。

幼少時から絵が好きで、青陵の先輩画家・木口敬三さん（11期）

現代アートの松井えり菜さん（53期）

メインの大作と松井えり菜さん＝香川・男木島の展示会場



に師事、青陵時代の美術部で本格的に取り組み、東京藝術大学から同大学院美術研究科で油画を専攻しました。ドイツへの留学経験もあり画業は20年を超える。東京で活躍していますが、大原美術館後援会会長でもあります。

寄稿

私たち3期

生は戦後混乱期の学制改革で、ちょっと違った6年間を過ごしました。

昭和21年4月、倉敷高等女学校に入学しました。岡山空襲で焼け出された人、海外から引き揚げてきた人、私のように疎開してきた者などがいて入学者は確か402人だった。

6組に分けたので1クラス67人。教室は超満員だった。普通教室が足りなくて音楽教室や作法教室(畳敷き)も使つた。

復員の先生方は軍服を着ていた。制服は

セーラー服が手に入らず母が縫ってくれた。靴やノートは高い闇値で買った。教科書も英語、数学ぐらいしかなく、後は新聞紙大の紙に印刷されたものを自分で切り分け綴じて製本した。そのほかの教科書はなく、板書だった。

ある日、音楽教室から上級生の「流浪の民」のコーラスが聞こえてきた。戦後のガサガサした日常が一転して「ここは女学校よ」という気分に初めてさせてくれた。



倉女から青陵 6年間のあれこれ

3期 佐野 徳子 (旧姓 長谷川) やす子 || 京都府在住 ||

科目は必修以外自由選択なので苦手な数学は1年間

別々だったので男子とはあまり話す機会がなかつた。

昭和23年の学制改革で精思高等学校となり、私たちは(過渡期の)併設中学生となつた。翌年、さらにエスカレーター式に(新制の)倉敷青陵高校生になった。

3年生になった昭和26年、教室に余裕が

でき、富井校舎から(倉中・倉高)の男子が来て初めて共学となつた。共学とはいえ女子が8組と多く、男子は半分の4組。クラスが6組に分けたので1クラス67人。教室は超満員だった。普通教室が足りなくて音楽教室や作法教室(畳敷き)も使つた。

復員の先生方は軍服を着ていた。制服は

セーラー服が手に入らず母が縫ってくれた。靴やノートは高い闇値で買った。教科書も英語、数学ぐらいしかなく、後は新聞紙大の紙に印刷されたものを自分で切り分け綴じて製本した。そのほかの教科書はなく、板書だった。

ある日、音楽教室から上級生の「流浪の民」のコーラスが聞こえてきた。戦後のガサガサした日常が一転して「ここは女学校よ」という気分に初めてさせてくれた。

佐野徳子さんと終戦後の学校の変遷

年代(昭和)	佐野徳子	学 校
21年	倉女入学	倉女最後の入学生
22年	倉女2年生	
23年	精思併設中学生	新制高校誕生。倉女が精思高校に、倉中が倉敷高校に
24年	青陵1年生	精思高校と倉敷高校が合併、倉敷青陵高校誕生
25年	青陵2年生	合併後、青陵初の新入生入学
26年	青陵3年生	富井校舎の倉敷高校(倉中)生、美和校舎へ

(編集室作成)

西田(旧姓石井)照子さん =8期・家庭科=です

「公民館講座で草木染をやっとんよ。頑張つとるから話聞いて」という要望を、西田(旧姓石井)照子さん=8期・家庭科=から令和6年の本部同窓会(8月)の席上、聞きました。早速、水島公民館の9月最初の例会に出向きました。

この日の教室では、西田先生を中心に10人の会員が集合して藍染をしました。染料の藍の色素を水に溶かして大きな容器で布をしっかり漬け込みます。染料が染みわたったところで台に乗せて絞り、模様を付けるくくりひもをほどく作業をします。ベテラン西田先生はその様子をじっと見守っていました。

西田さんは子育てが一段落した45歳ぐらいに草木染講座に入会したのが始まりでキャリア40年、先生になって15年になります。ヨモギやビワの葉、クリ

の皮などを材料にTシャツやスカーフ、のれんを作ります。年1回、秋の公民館文化祭に会員とともに作品を出すのを楽しみにしています。



草木染の中の藍染を指導する西田照子さん(右端) || 水島公民館

草木染40年、公民館講座の先生

在学中、調理師コースに進み調理師を目指す傍ら、美術系が好きで美術科目を選択しました。草木染をはじめ水墨画、拓本も同じような年季を積んでいます。趣味の広い多芸な人です。「病気をしとる暇がね~んよ」と軽い冗談を言います。

拓本は青陵で書道を教

えていた井上三男(雄風)先生の指導を受けたそうです。

草木染講座には坂根(旧姓塚本)晴美さん=8期・家庭科、藤原(旧姓藤原)美佐子さん=12期・家庭科、中原(旧姓高田)因(より)子さん=13期・普通科=の皆さんも頑張っています。

ますます元気